



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久 (APIR 研究統括)

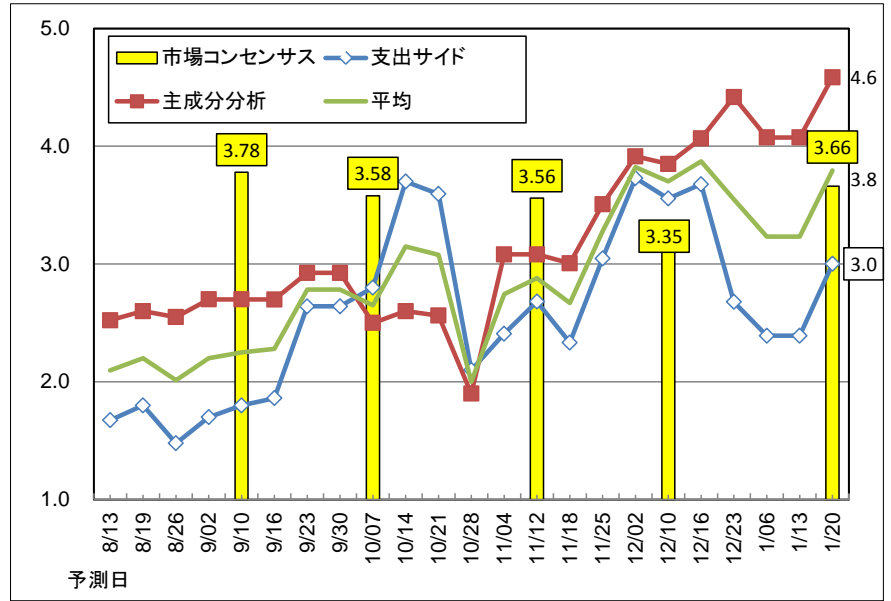
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail: inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2014年1月20日)

## ポイント

- ▶先週更新されたデータは、民間最終消費支出、民間企業設備、政府最終消費支出、公的固定資本形成、純輸出及び主要デフレータの予測に影響を与える。
- ▶11月の消費総合指数は前月比+0.8%上昇し、2ヵ月ぶりのプラス。結果、10-11月平均は7-9月平均比+0.7%高い水準となっており、10-12月期の民間最終消費支出は好調が予想される。
- ▶11月の民間コア機械受注は前月比+9.3%増加し2ヵ月連続のプラスとなった。結果、受注額はリーマンショック前以来の水準を記録した。
- ▶今週(1/20)の超短期モデル(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.0%と予測する。民間最終消費支出の予測が上方修正されたため、先週の予測値(+2.4%)から上昇した。支出サイド、生産サイドいずれの予測も再び上方トレンドを示している

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2013年10-12月期(%, 前期比年率換算)



## <10-12月期、民間最終消費支出は加速し、民間企業設備は拡大に>

先週(1/13-1/17)更新されたデータは、12月の消費動向調査、景気ウォッチャー調査、国内企業物価指数、輸出入物価指数、11月の第3次産業活動指数、毎月勤労統計(確報値)、消費総合指数、情報サービス業売上高、民間機械受注、建設総合統計及び国際収支状況である。これらのデータは民間最終消費支出、民間企業設備、政府最終消費支出、公的固定資本形成、純輸出及び主要デフレータの予測に影響を与える。

11月の消費総合指数は前月比+0.8%上昇し、2ヵ月ぶりのプラス。結果、10-11月平均は7-9月平均比+0.7%高い水準となっており、10-12月期の民間最終消費支出は好調が予想される。11月の民間コア機械受注は前月比+9.3%増加し2ヵ月連続のプラス。結果、受注額はリーマンショック前以来の水準となった。10-12月期、民間最終消費支出は加速し、民間企業設備は拡大にむかう。

12月の景気ウォッチャー現状判断DIは、駆け込み需要が本格化し2ヵ月連続の改善。一方、先行き判断DIは、4ヵ月ぶりの悪化。増税後の不安が指標に表れたようである。12月の消費動向調査によれば、消費者態度指数は前月から1.2ポイント低下した。2ヵ月ぶりの悪化。景気ウォッチャー先行き判断DIと同様、増税後の反動を懸念する結果といえよう。

今週(1/20)の超短期モデル(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.0%と予測する。民間最終消費支出の予測が上方修正されたため、先週の予測値(+2.4%)から上昇した。支出サイド、生産サイドいずれの予測も再び上方トレンドを示している。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6485-7690